

コメントライナー

第6432号

2018年4月18日(水)

◎ザッカーバーグの謝罪に見るスピーチ力

言の葉OFFICEかのん代表 川邊 暁美

◆個人情報流出で揺れるFB

世界で20億人以上が利用する交流サイト・米フェイスブックの最高経営責任者(CEO)マーク・ザッカーバーグ氏が、偽ニュース拡散や個人情報の不正流出問題について米上院公聴会で謝罪した。

創業からわずか13年間で年間売上高約4兆3000億円の巨大企業に成長したフェイスブックだが、ザッカーバーグ氏本人が自社を「理想主義で楽観主義の会社だ」と述べた言葉に象徴されているように、世界中の人が繋がることのできるコミュニティーサイトを作る、という夢を実現した一方で、事業の根幹である利用者の保護については、先読みをした対策がなされてこなかった、その認識の甘さが招いた結果だ。

◆一歩も逃げない覚悟

どのように責任を取っていくのか、この問題がどのように発展していくのか、今後も世界の注目が集まるところだが、実は、筆者がこの問題に関心を持ったのは、ニュースで目にしたザッカーバーグ氏の謝罪に心を動かされたからである。国会での「森友・加計」「自衛隊日報」問題など不毛な答弁シーンが流れる中で、そのシーンはとても印象的だった。

「この会社を始めたのは私で、私が運営してきた。そこで起きたことは私に責任があります」と、姿勢を正し、真剣な表情で顔を上げ、まばたきもほとんどせず、正面だけでなく左右の議員たちにも視線を向けながら、よく通る声で、間(ま)を取りながら自分の言葉で語るザッカーバーグ氏の姿からは、「一歩も逃げないで責任を果たす」覚悟が伝わってきた。

◆卓越した発信力、構成力、外見力

そこで、ザッカーバーグ氏のスピーチ力はどの程度なのかと、昨年5月、ハーバード大学卒業式で祝辞を述べた際のスピーチ動画を見て、筆者がスピーチ・プレゼン指導をする際に使っている「心を動かす3要素」から分析してみた。

①「発信力」(声と話し方)は聞き手の関心を惹きつける重要な要素。ザッカーバーグ氏の声には張りがあり、語尾まで勢いが衰えず、力強く言葉を発しており、間を取ることで聴衆の反応も引き出している。

②「構成力」(内容)。導入で自らの思い出を合格通知を受け取る瞬間、ハーバードでの最初の講義、初めての友人・・・と心地よいテンポで語っていき、その場にいる卒業生・両親たちと共感しあえる世界を最初に作り上げることに成功している。

「人生の目的を見つけるだけでは十分ではない、誰もが目的意識を持つ世界を創造することが自分たち世代の挑戦である、そのために3つの方法がある」と話の進め方も巧みだ。無駄な言葉がなく、意味の含有率が高いため、聞き手に気を抜かせることなく、ぐいぐい引き込んでいく。

③「外見力」(表情・姿勢)。上半身がまったくぶれない。右手を上げたり、両手を広げたりといったジェスチャーと笑顔は自信に満ち溢れ、説得力を増す効果を上げている。

この卓越したスピーチ力は、自ら立ち上げた会社をここまでにするために、様々な場で熱く自分の思いを語ってきた、その結晶であるのかもしれない。今回、取り返しがつかない事態を招いてしまったが、この人は必ず事態を収め、信頼を取り戻すだろう。そんな気にさせられた。(かわべ・あけみ)

◆監修◆ 内外情勢調査会

◆委託編集◆ 時事総合研究所

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 TEL: 03-6800-1111(代表)

この記事に関する問い合わせは、時事総研(03-3546-2384)まで

本稿の一切の情報について、無断転載・複写をお断りします。©時事通信社 2003